

循環型社会の形成

循環型社会の形成に貢献するため、全社のしくみとして資源の有効利用に取り組み、ゼロ・エミッション化を推進しています。そのため、事業所から排出する廃棄物について、排出量の削減(リデュース)、再利用(リユース)、再資源化(リサイクル)を進めています。

3Rの推進活動

2007年度の目標

- ・ 廃棄物排出量原単位.....前年度比 2%削減
- ・ 埋立比率.....0.9%(国内事業所)
- ・ 廃棄物排出量.....前年度比 2%削減
- ・ 建設廃棄物の再資源化率.....95%

廃棄物排出量

廃棄物排出量原単位は2006年度比8%削減し、目標を達成しました。

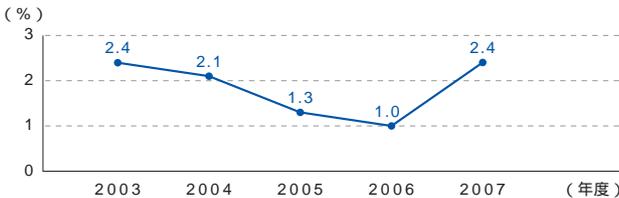
廃棄物排出量は2006年度比5.5%削減し、目標を達成しました。

廃棄物の埋立比率

廃棄物の埋立比率は、2.4%となり、目標は未達成でした。

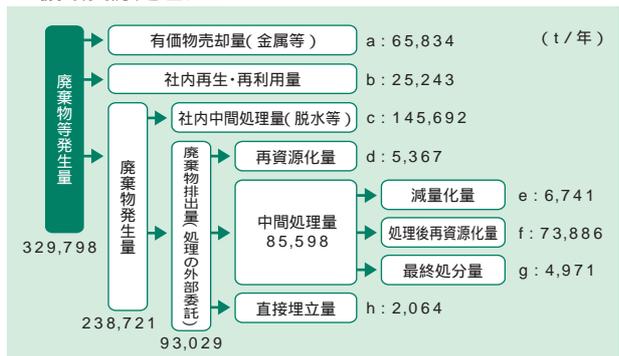
この理由は、鉄鋼スラグの再資源化委託先の減少およびFWパイプの再資源化設備の故障により、一時的に埋立処分量が多くなったためです。

埋立比率の推移(国内事業所データ)



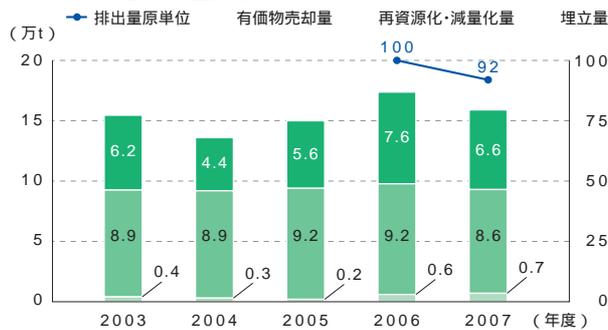
注1: 埋立比率(%)=(直接埋立量+中間処理後最終処分量)/(有価物量+廃棄物排出量)
国内生産事業所でゼロエミッション(定義:直接埋立量/廃棄物排出量が1%以下)を達成したため2007年度より定義を見直しました。

循環資源処理フロー



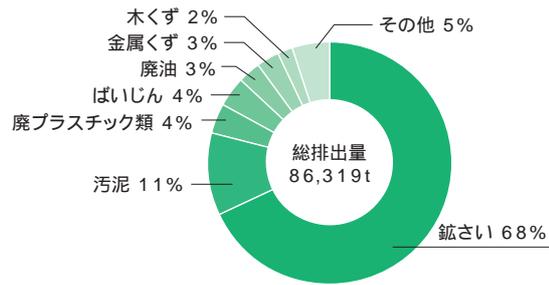
注1: 社外中間処理に伴う減量化量、処理後再資源化量、最終処分量は委託先での調査結果です。
注2: 流通回収廃棄物は除外しています。

廃棄物等排出量の推移

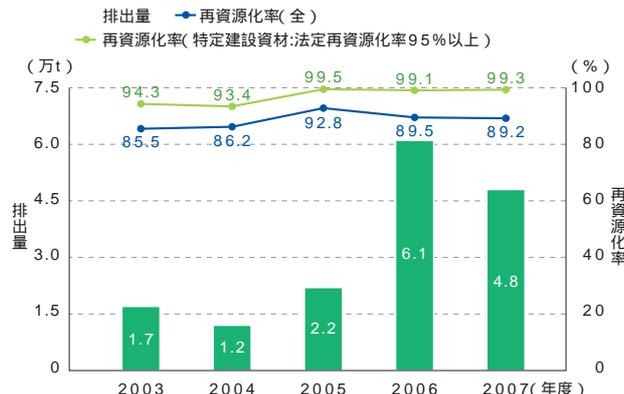


注1: 2005年度までは国内事業所のみ、2006年度以降は海外事業所を含みます。
注2: 排出量原単位(2006年度を100とする)=廃棄物排出量/連結売上高

廃棄物等の排出量と内訳(国内事業所データ)



建設廃棄物再資源化率の推移



注1: 2005年度まではクボタ単体、2006年度以降は国内グループ会社も含みます。
注2: 再資源化率(全)は特定建設資材廃棄物以外の工事廃棄物も含みます。
注3: 再資源化率=(有価物+再使用量+再生利用量+減量化量(熱回収))/排出量(含有物)但し、2006年度以前は減量化量に単純焼却、脱水などの量も含みます。